

脳死下での臓器提供事例に係る検証
会議による102例のまとめについて
(修正版)

厚生労働省健康局
臓器移植対策室

対象提供事例

- 2012年1月末までに、検証が終了した102例を対象とした。

(厚生科学審議会「臓器移植委員会」で検証した4例を含む)

脳死下で臓器提供して下さった方々

○ 提供者

男性:57人 女性:45人

年齢:平均 44歳

(10歳以上15歳未満~70歳代)

○ 原因疾患

病名	人数
くも膜下出血	42
頭部外傷	20
蘇生後脳症	20
脳出血	13
脳梗塞	5
脳腫瘍	2

→ 脳血管障害が
6割

年齢による疾患の分布

人

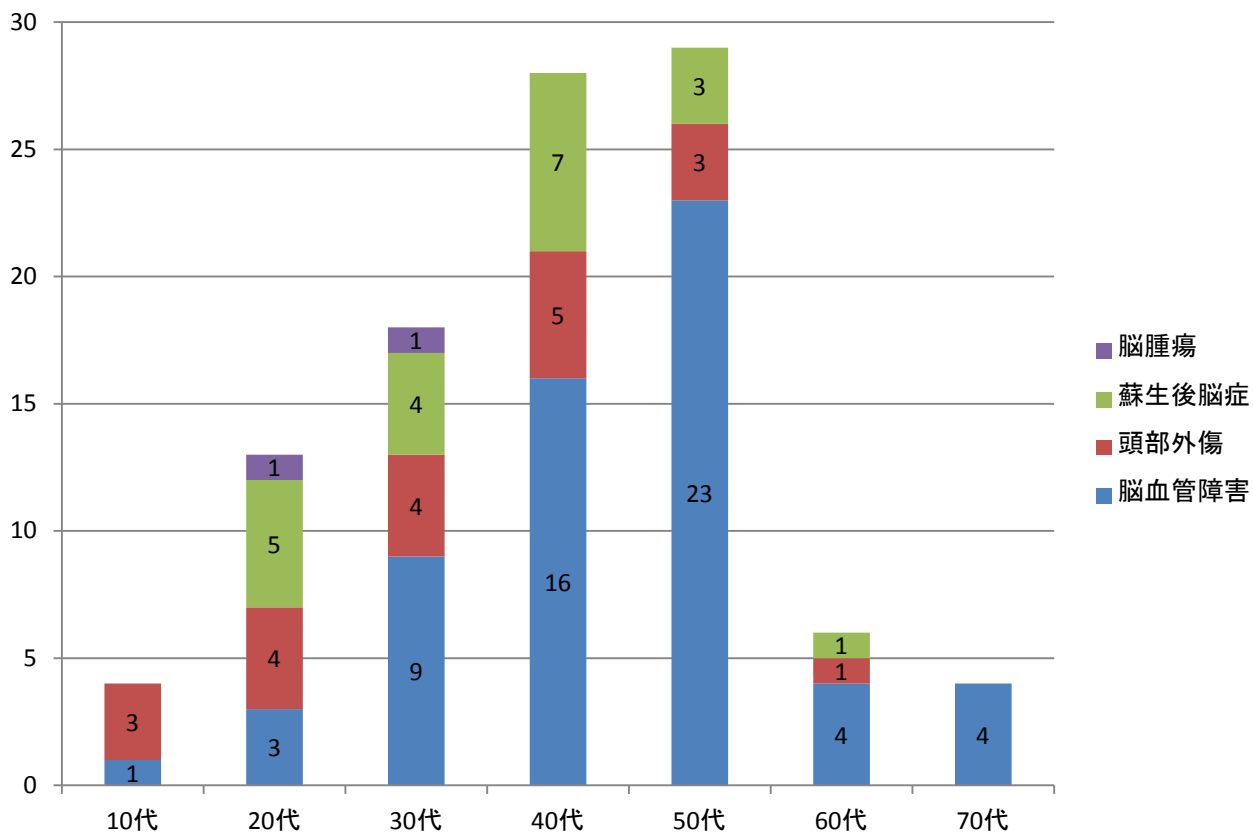
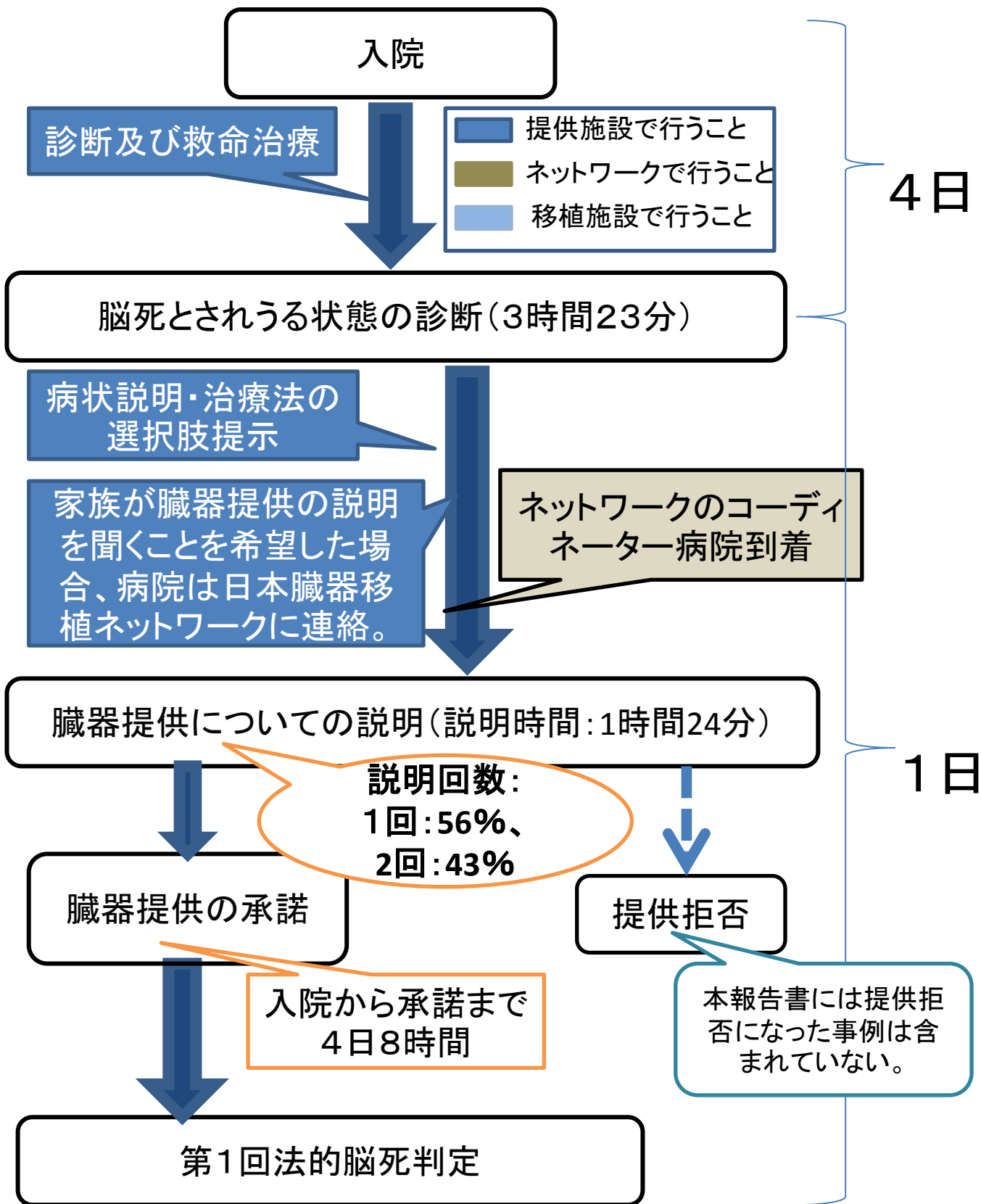


図) 年齢による疾患分布

年齢の上昇に伴い、脳血管障害を原疾患とする割合が高くなる。

入院から臓器提供まで(その1)

(値は全て中央値)



入院から臓器提供まで(その2)

第1回法的脳死判定(2時間25分)

6時間

第2回法的脳死判定(2時間9分)

レシピエント選定開始

レシピエント決定

14時間

移植施設より、摘出
チーム集合

臓器提供

臓器移植

搬送時間:心臓:103分
肺:197分
肝臓:207分
腎臓:44分
膵臓:228分
小腸:238分

家族が臓器提供を承諾した理由の具体例

【事例1】(提供の意思表示なし)

- 配偶者「本人の意思を活かしてあげたいけど、私が本人の最期の時間を決めてしまうのは負担に感じる」
- 親族は「脳死で提供したら複雑、でも心停止での臓器提供なら腎臓と角膜の提供しかできないのも残念。少しでも多くの役に立ったらと思う」
- 配偶者「(医師に言われ、カードを探したが、)カードは見つからなかったけど、ずっと前から本人は臓器提供をしたいと言っていたので、本人の希望を叶えてあげたい」

【事例2】(提供の意思表示あり)

1回目の説明

- (家族は本人が臓器提供意思表示カードを所持していることを知っていた。)
- 「もう決めています、年齢、病院名など細かいことは公表してほしくない」
- 「他の親族にも確認したい」
- (再度、説明の時間を設けることとした。)
-

2回目の説明

- 家族から「脳死で臓器提供をしたい」

家族が臓器提供を承諾した理由の具体例

【事例3】(提供の意思表示あり)

1回目説明

- 家族「本人が臓器提供意思表示カードを所持していたことを知らなかった。臓器提供が本人の意思なら尊重してあげようと思ったが、情報公開があることで実家の周辺(近所の人達)に知られてしまうのではないかと、軽い気持ちで考えていた。」
(一度、家族で話し合うことを希望した。)

2回目説明

- 家族「本人の意思を尊重してあげたい」

【事例4】(提供の意思表示あり)

- 家族「臓器提供は承諾します。でも、情報公開はやめてほしいと思います。とにかく個人が特定されないようにしてほしい。悪いことをするだけではないのに、どうして人から色々と言われたいといけないのでしょうか。」
- (公表内容については、コーディネーターは、具体的内容は随時相談することを伝えた。)
- (最終的に2回目の法的脳死判定後に情報公開用紙を提示し、家族の了解を得た。)
- 家族「仕方がないです。背負っていかなくてはいけないことです。最後にお願ひがあります。移植した人のことは、どうしているか教えてください」

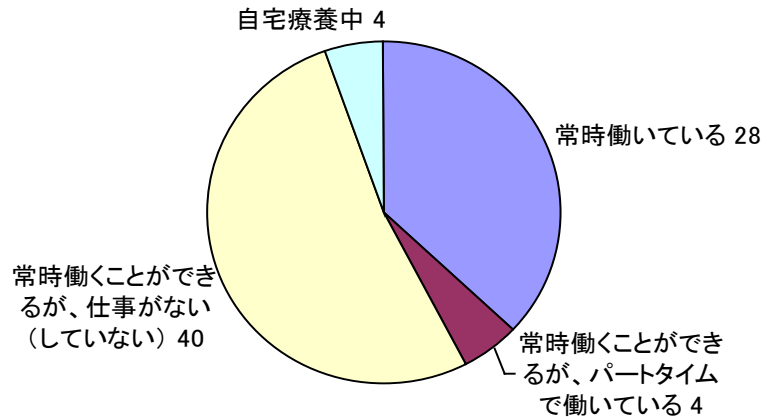
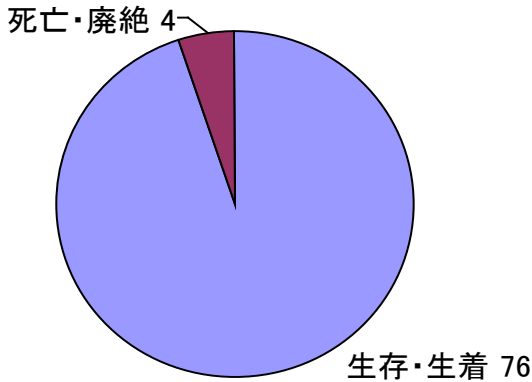
【事例5】(提供の意思表示あり)

- (家族の中には本人が臓器提供意思表示カードを所持していることを知っている人と知らない人がいた。)
- 家族「身体が温かいのに・・・と思うと納得しがたいけど、本人の立場に立ったら臓器提供することが一番だと思う」

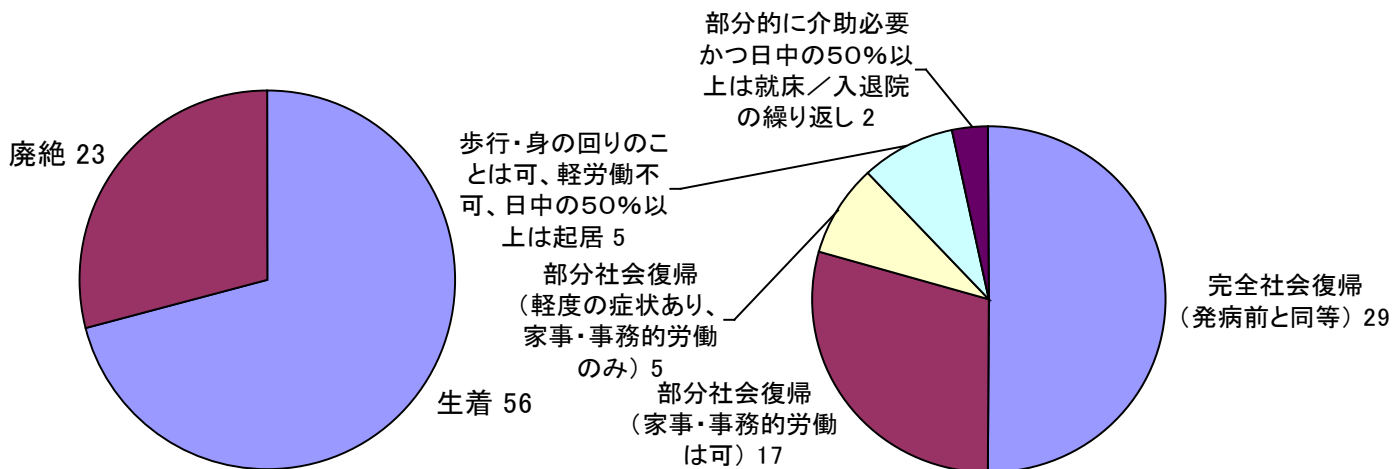
臓器移植成績と社会復帰状況

(平成23年末現在)

○ 心臓移植(80例)



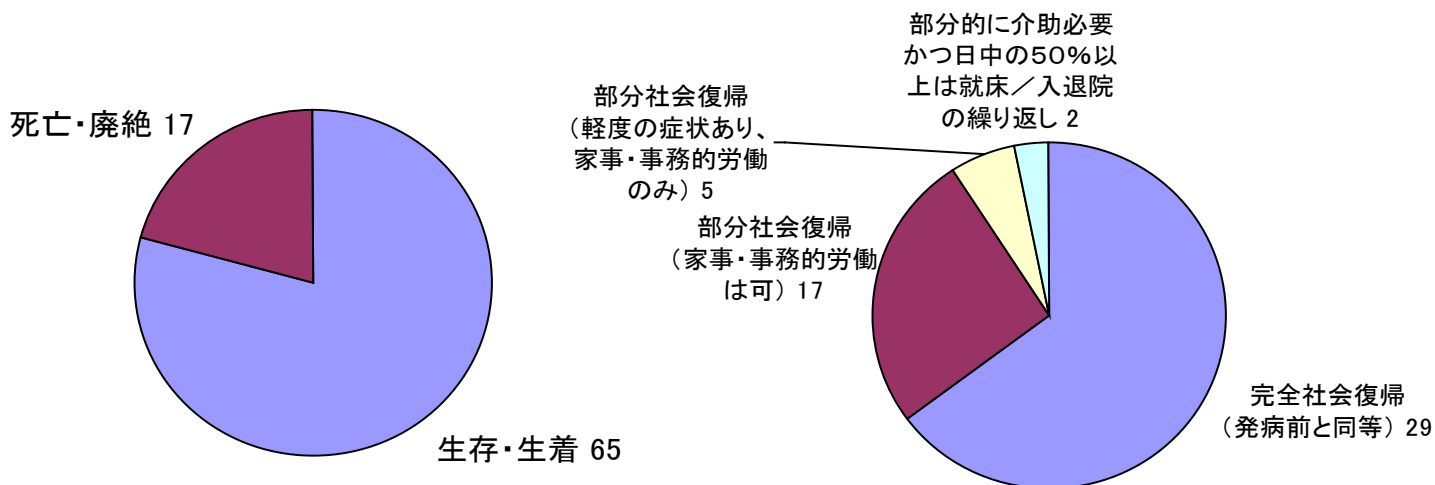
○ 肺移植(79例)



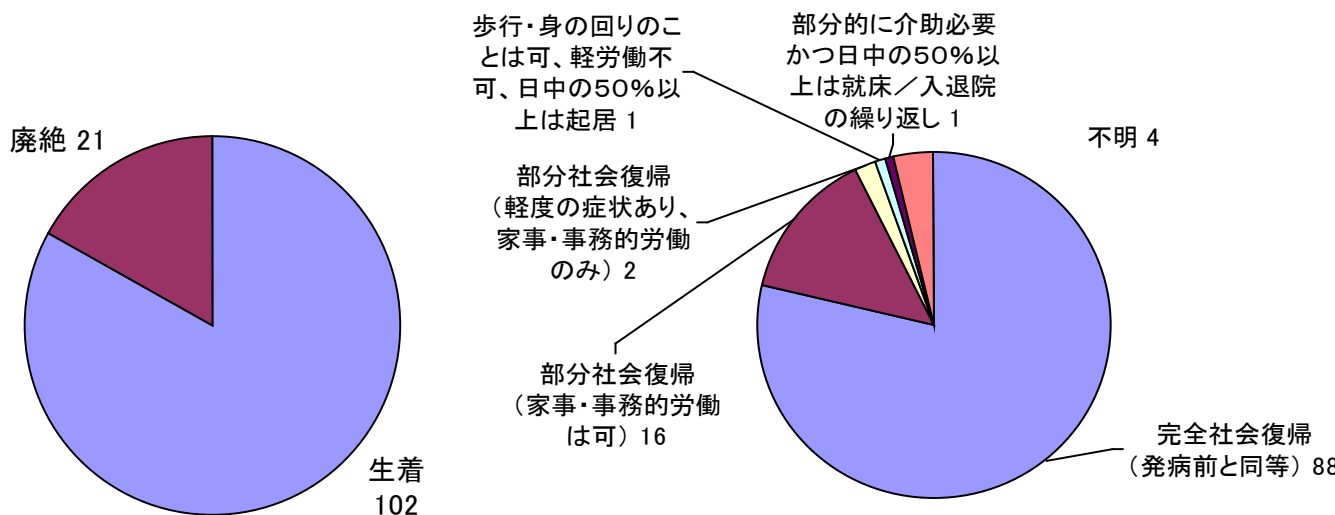
臓器移植成績と社会復帰状況

(平成23年末現在)

○ 肝臓移植(82例)



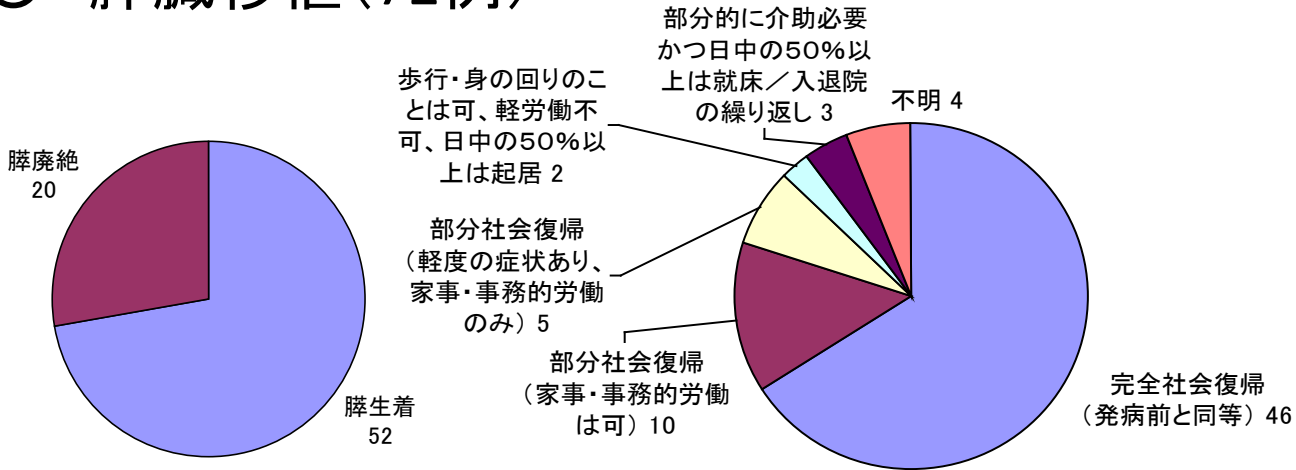
○ 腎臓移植(123例)



臓器移植成績と社会復帰状況

(平成23年末現在)

○ 膵臓移植(72例)



○ 小腸移植(8例)

